

濾胞性リンパ腫の臨床経過に関する後方視的調査研究

1. 研究の対象

2000年1月～2012年12月に国立がん研究センター中央病院で濾胞性リンパ腫と診断された方々の診療録を対象とし、患者背景、治療内容などがその後の経過に及ぼす影響を評価するための情報収集を行います。

2. 研究目的・方法

本研究は、リツキシマブが使用できるようになった2000年代以降の濾胞性リンパ腫の患者さんを対象に、診断時の状態、初回の治療内容などがその後の経過にどのような影響を与えているのか、などを調べることを目的としています。とくに、無治療で経過をみられている方々と直ちに治療を開始した方々の経過を比較することに重点をおいています。将来的には、この研究データの結果が濾胞性リンパ腫の診療に携わる医師や患者さんに広く利用され、より効率的な治療を進められるようになると期待しています。

2000年1月～2012年12月に、当院で濾胞性リンパ腫と診断された患者さんの診療録から、診断時の状態や治療方針、その後の経過に関する情報を収集します。情報の収集は、血液腫瘍科の医師が行います。

研究実施期間は、10年間を予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、化学療法の治療歴、臨床経過、カルテ番号 等

試料：診断時に採取した血液、組織の残余検体 等

4. 試料・情報の公表

本研究によって得られた結果は、学会等の口演や論文の形式で、公表される予定です。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科 油田さや子 / 丸山 大 (研究責任者)
TEL 03-3542-2511